

「幸せのレシピ THE NO RESERVATIONS 2007年製作 104分」の見どころ

上映前

●評判を呼んだ 2001年のドイツ映画「マーサの幸せレシピ」をリメイクしたハートフル・ロマンティック・ラブコメディ。料理の腕は一流だが、人付き合いが下手なヒロインが、囮らずも直面した新たな人間関係の中で次第にかたくなな心を解きほぐしていく姿を描く。

*ドイツ映画からアメリカ映画へのリメイク例は他にも:

ー古くは「菩提樹」⇒「サウンド・オブ・ミュージック」

ー比較的新しくは「ベルリン:天使の詩」⇒「シティ・オブ・エンジェルズ」

スタッフ・キャスト

出演者: この三人三様の魅力、とくにご覧あれ!

・キャサリン・ゼタ=ジョーンズ(ケイト)←真木よう子似。「怪傑ゾロ」シリーズ、「オーシャンズ12」他

・アーロン・エッカート(ニック)「サンキュー・スモーキング」

・アビゲイル・ブレスリン(ゾーイ)「リトル・ミス・サンシャイン」「私の中のあなた」(両親を訴える難しい役)

監督:スコット・ヒックス「アトランティスの心」

ストーリー

ニューヨークでも1、2の人気を誇るマンハッタンの高級レストラン“22ブリーカー”。そんな店の評判を支えているのが、超一流の腕前と妥協のない仕事ぶりで知られる女料理長のケイト。しかし、完璧主義が過ぎて独善的・威圧的で、時には客とケンカしてしまうこともあるので、オーナーのポーラ(パトリシア・クラークソン)に言われてセラピ

ーに通っている。そんなある日、たった一人の肉親だった姉が事故で亡くなり、ケイトは遺された9歳の姪ゾーイを引き取り一緒に暮らすことに。子どもとの接し方が分からず、なかなか心を開いてくれないゾーイに苦悩するケイト。おまけに、仕事場には彼女の知らないうちに陽気なシェフ、ニックが副料理長として新たに加わり、彼女の聖域を自由奔放に侵し始め、ケイトのいら立ちは募るばかり。ゾーイは心を開こうとしない。夜遅くまで一人にさせておくわけにもいかず仕事場へ連れていくと、ニックの機転によりゾーイは食事を取り始める。その日からゾーイは徐々に心を開き、彼女の要望によりケイトの部屋へニックを呼んだことから二人の距離も縮まってくる。しかしケイトが休んでいる間に、ポーラはニックに正式に専属シェフにならないか打診。それを知ったケイトはニックに、「自分の城を奪うな、なぜ独り立ちしようとしなくていいの」と激しく詰め寄り、再び衝突。夜、ニックからシェフになる話は断ったとの電話が入る。翌日、ニックが家に来ることはもうないと告げられたゾーイはショックを受け、失踪。慌てたケイトはニックに連絡し、二人で探す。ゾーイは母の墓にいた。落ち着きを取り戻したケイトに、ニックはサンフランシスコで総料理長となると話す。再び厨房はケイトの天下となったが、ニックを必要としていることに気づき、自分の殻を破って彼の部屋へ引き留めに行く。しばらくして、ケイト・ニック・ゾーイのレストランが開店し、仲むつまじく働く3人の姿があった。

《見る前に3言》

(1) 見るからにおいしいそうな料理の数々、堪能して!

(2) 《クイズ》オペラ好きのニックにちなんで、オペラや軽音楽の音楽がふんだん。どのくらい知っているか、題名を当ててみて!

(3)《クイズ》 原題は「予約なし」(トリプル・ミーニング 3つの意味は?)

- (1)なんの予約もなしに、突然姪っ子が飛び込んできた。
- (2)予約なしに男性シェフが人生の中に入り込んできた。
- (3)レストランのフリーの客のこと。

上映後

- 人生は、死と隣り合わせ。生きていることは当たり前ではない。⇒生かされている。
- 人は時として、それまでの環境と全く違うところに放り出されるときがある。その時にどう対処していくか。⇒自分はなんのために生きているのか。誰のために生きるのか、の“人生の根本レシピ”が問われる。

三人三様の人物像

- ケイトは完全(完璧)主義:
 - 自分にも他人にも厳しい(ミスを許さない)。プライドが高く、他人を受け入れる器が小さい。
 - “自分の城”を持ち、自分のやり方が出来上がっているので、アクシデント=予約なし!(不慮の出来事=ゾーイとの同居。ニックの“侵入”)に弱い。
 - 生活の領域が狭く(厨房)、他の広い世界を知らない。したがって、他人のことにも無関心。

●叔母ケイトと姪ゾーイの類似点:

- ① “喪失”に対する恐怖心。ケイトは仕事が生きがい、心の拠り所で、それを奪われることで自分に何も残らないことが怖い。ゾーイも母親を急に亡くして、独りになってしまった。またいつかケイトもいなくなって独りになってしまう。それが怖い。
- ②心の閉鎖: ケイトはそのストイックさで他人に心を閉ざして、カウンセラーにかかっている。そんなケイトが手を焼くことになる姪のゾーイも、母親を失った悲しみから心を

閉ざしている。心を閉ざしている人が突然心を閉ざしている子供の面倒を見なくてはいけなくなって生み出すエピソードがこの物語の悲しみとおかしさを醸し出す。

●ニック: 心の問題は、環境が変わることで解決への道が開かれる。叔母と姪の閉塞関係の中にケイトとは正反対の性格の陽気で自由奔放でオペラを愛するニックが絡むことで、二人にも転機が訪れる。

だが、ケイトの開きかけた心も、ニックが彼女に代わりシェフになろうとしていると知って、眠っていたプライドが頭をもたげる。

【字幕】ニック「時には心を開けよ 楽になる」

ケイト「この厨房は私の人生なの 私の全てなのよ」

この映画の魅力3つ

●(1)料理:

ストーリーに“料理”をうまく練り込んである。(例: ウズラのトリュフソース!)

①ケイトを演じるキャサリン・ゼタ＝ジョーンズは、本当は全く料理をしないそうなのだが、この映画への出演をきっかけに、料理を始めたとか。とは言え、何か盛り付けをしているシーンは多いのだが、彼女自身が調理をしているシーンは皆無! シェフは盛り付けと指示なのでラッキー。

②主役2人を演ずるキャサリン・ゼタ・ジョーンズとアーロン・エッカートは実際のシェフ(マイケル・ホワイト)から特訓を受けた。

・アーロンは1度指を切り、玉ねぎが血だらけに。

・キャサリンは1度ウェイトレスになって、客席に出てみた。客が知らずに「キャサリン・ゼタ・ジョーンズに似てるわね」。キャサリン「よく言われます。」(!)

③子供が食べてるスパゲッティ(パスタ)が結局一番おいしそう! 豪華で高い料理より、賄いみたいな家庭料理がハートには効く。

*レストラン料理は“宮廷”の味。賄いは“家庭”の味。

【字幕】「手の込んだ料理より食べ慣れた味」

【シーン】

①注文される豪華な素材名が次々に。その中でありふれたスパゲティを初めてむしゃむしゃ食べるゾーイ！ その時のニックの作戦がうまい。一切勧めず、自分用に作り、ゾーイの前でうまそうに食べる。効果絶大！

②素材準備を手伝い、ヘンな臭いのする高級トリュフをポイとクズ箱に捨てるゾーイ！

●(2)音楽:

①場面場面に合わせた多種多様なジャンルの音楽の使い方(オペラ、軽音楽、…)

②パバロッチェのオペラをふんだんに使っている。

「誰も寝てはならぬ」(プッチーニ《トウランドット》より。最初と最後のシーン)

「女心の歌」ヴェルディ“リゴレット”より(♫風の中の羽のように いつも変わる女心)

「スウェイ(キエンセラ)」

「ライオンは寝ている」(映画「ライオンキング」より)

「ある晴れた日に」(プッチーニ“蝶々夫人”)

「ラ・トラヴィアータ 乾杯の歌」(ヴェルディ『椿姫』)

「私のお父さん」(プッチーニ“ジャン・スキッキ”より。真夜中の2人の愛のシーン。)

「清きアイーダ」(ヴェルディ“アイーダ”より)

「マンボ・ジェラート」

「トリュフとウズラ」

「形見のホームビデオ」

「ヴァイア・コン・メ」

「レストランへ」

「空と海」(歌劇“ジョコンダ”より)

「カウント・オン・マイ・ラブ」(全15曲)

●(3)ストーリーの暖かさ:

《いいストーリーの典型的2タイプ》

①ダメ人間が、鍛えられて、有能な人間に育っていく。

②いがみ合う他人同士が家族のように打ち解けていく。⇒この映画が典型。

*意地の張り合いから、心が少しずつほぐれて通い合っていく姿が、人には一番“幸せ”感をもたらす。そこに「愛」があるから。

【そんなシーンの数々】⇒あなたはどのシーンがお好き？

*厨房で、ニックとゾーイのダンス。

*願い事で、日曜日、ニックを家に呼ぶ。寒い中待っているゾーイが「全く！」(言語Man!=男ったら！)

*ゾーイはニックとパイほかの料理を作り、サファリ(テーブルなし、皿なし)で夕食、ゲーム。

*ある夜、ゾーイは母との浜辺のビデオを見て涙を。そこにそっと寄り添うケイト。泣きながらも彼女にもたれかかるゾーイ。翌日は2人で休暇を取り、一日を楽しく。銀行ゲーム、そのあとの枕たたき。(それまでのケイトには考えられないこと。彼女が完全に心を開放して、11歳のゾーイの世界に入ったから。)

⇒これが心を開く決め手。神のみ子が、人としてこの世に来てくださったように。

*その真夜中、ニックが尋ねて来て愛の一夜、翌日はゾーイと3人で、親子のように自転車で楽しい一日。

*ケイトがニックの昇進に怒り、家に帰ると;

【字幕】ゾーイ「ニックは？」 ケイト「うちに帰ったわ」

ゾーイ(寂しそうなケイトを見て)「ケイト ルーイ(ゾーイのお気に入りの人形)と一緒に寝る？」(優しいゾーイ。)

*翌朝、いなくなったゾーイは亡き母の墓に。

【字幕】ゾーイ(ケイトとの暮らしが幸せになって)「ママを忘れそう。」

ケイト「忘れないわ。約束する。(ここへ)来なくなったら言って。」

*子供は「今の幸せのためには母を忘れなければいけない。でも忘れたら、どうしよう。あんなにママを好きだったのに」と悩む。

*「マッサン」でも、家主の後妻を、「ママ」と呼んでは亡き母に悪いからと、どうしても呼ぼうとしない長女の話が。

*先日召天した三浦光世さんも、最後まで妻綾子さんの初恋の人、前川正さんの写真を身に着けていた(前川さんに代わって、前川さんの分も妻を愛そうと。)

*愛する亡き人のことは、今与えられた幸せを守るために忘れる必要はない。いや、忘れてはいけない。共にその人を偲び、愛して思い出を共有していくべき。これが聖書の愛の姿(Iコリント13章)。

結

●「幸せのレシピ」は:

(1)どこのレストランを探してもないし、そんなメニューを作れるシェフもいない。

【字幕】ケイト「人生にもレシピがあればいい。失敗せずに済むのに。」

セラピスト「自分が作ったレシピが一番いい。」

⇒それを聞いたケイトは、それまで一度もやったことのないこと、サンフランシスコの料理長として去ろうとする彼のアパートに、自分から引き留めに行く。

* Recipe レシピ: ①調理法。②秘訣、秘策。

*「幸せのレシピ」は、あなたの心に存在する。何に対してであれ、閉ざしていた心が開くとき、あなたの「幸せのレシピ」は作られていく。

(2)「幸せのレシピ」とは、自分が幸せになるためのレシピではなく、誰かを「幸せにするためのレシピ」。(料理は本来そういうもの。)

【

* as「バベットの晩餐会」のバベット。(最近FB[映画カフェ]でも話題となった。]

*私の妻も「一人で食べてもおいしくない。」と、独りのときは料理を作らない。

—高くなくても、新鮮でいい素材を使い、

—一心を込め、手間暇をかけ、

—隠し味を効かせる。(愛のスパイス)

(3) ●「幸せのレシピ」を作るとは、究極、「他者のために生きる」ということ。(私の生き方のモットー)

●そしてその究極の秘けつは？

* 人生には、時として No Reservation「予約なし」の出来事が起こる。でも神様に在っては、全ては「予約済み」。

* そんなハプニングの中でも、失敗せずに、いえ、失敗してもやり直せる人生のレシピ(秘訣)は、THE BIBLE「聖書」の中にある。「聖書」が「人生最高のレシピ」なのだ!

★「聖書で読み解く映画」って、いいですね。ではまたお会いしましょう。ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ!

《完》